

第 39 卷 1 号特集

「傾斜とたたかう機械」への投稿募集

2023 年 1 月 13 日に開催された森林利用学会常務理事会において、2023 年度の森林利用学会の活動テーマについて検討が行われました。2022 年度の活動テーマは労働災害・安全と関連するものであり、第 38 巻 1 号では特集「もう 3K とは言わせないーより安全に、より快適に、そして儲かる林業を目指して」を掲載しております。日本の森林のほとんどは山地にあり、世界の他の地域に比して急傾斜地の割合も高く、より高度に安全と生産性を追求するためには使用される機械やシステムにおいて傾斜地をいかに克服するかが常に課題となってきました。日本においては架線技術が世界の中でも特殊といえる進化を遂げているところですが、森林と林業に関わる状況の変化にあわせ、いわゆる従来型の定置式集材機から日本式のスイングヤーダを経て欧州型のタワーヤーダへ、そして近年では定置式集材機の油圧駆動や遠隔操作化が見られるようになってきました。いわゆる車両系では、10 年ほど前から海外で見られるようになってきたハーベスタやフォワーダを急傾斜地に対応させるためのウインチアシスト（あるいはテザー）が、現在では安全性と生産性を両立させるものとしてその適用が世界的な潮流となってきています。そのほかにも、苗木の UAV 運搬、自走式の自搾え機械、4 足歩行ロボットなど、小型機械においても傾斜地を克服するための機械開発が進展してきています。

そこで、来年の本誌第 1 号においては、「傾斜とたたかう機械」というテーマで特集号を組むことといたします。「たたかう」は、多様な意味を持たせるため、あえて、ひらかなとしています。「機械」としてはありますが、広く傾斜を克服するための研究として、システムや路網、その他を含めてこのテーマに関連する研究を広く募集することとしました。こうした知見により、山地における森林作業の安全と生産性の向上がさらにすすめられることにつながれば幸いです。

本特集は、2024 年 1 月末発行の森林利用学会誌第 39 巻 1 号への掲載を予定しており、論文（研究・技術）については **2023 年 8 月 31 日（木）まで**、その他の種別（総説、速報、研究・技術資料、抄録、雑録）については **2023 年 9 月 29 日（金）まで**原稿を募集いたします。会員の皆様からの多数のご投稿をお待ちしています。

森林利用学会誌編集委員会